

はじめに

本書は、作家 畑耕一が晩年に著した翻訳草稿の中から、M・R・ジェイムズの十作品を翻刻したものです。

広島市立中央図書館の広島文学資料室では、広島にゆかりの深い作家の一人として、畑耕一に関する資料を収集しており、M・R・ジェイムズのほか、モーパッサン、リチャード・ミドルトンらの怪奇小説、幻想小説と呼ばれる短篇作品の翻訳草稿を、二〇点所蔵しています。

M・R・ジェイムズ作品については、『Collected Ghost Stories of M. R. James』(Edward Arnold社 一九三二年)のうち、序と十五作品の計十六点の翻訳草稿とともに、出版元であるEdward Arnold社から畑耕一に送られた一九五一年十二月十一日付けの航空書簡が残されています。書簡には、同書の日本語版を出版したい旨、畑から照会

を受けたことが書かれています。畑の願いは叶わず、現在までこれらの翻訳は出版されませんでした。

大正二年、「三田文学」誌上に発表した「怪談」でデビューした畑は、国内外の怪談を集め、当時流行した怪談会へ通い、幽霊画のコレクションに熱中するなど、大変な怪談好きとして知られていました。戦後、郷土広島のア芸復興のため力を尽くした畑が、怪談に魅入られた作家として、晩年に取り組んだのがこれらの翻訳作品です。

現在、畑耕一作品のほとんどが絶版となっており、手に取る機会に限られています。本書をきっかけに、畑耕一とその作品へ関心を深めていただければ幸いです。

著者紹介

M・R・ジェイムズ (Montague Rhodes James 一八六二—一九三六年)
イギリスの作家、古文書学者。イートン校校長、ケンブリッジ大学副総長を務め、研究の傍ら、怪奇小説を執筆した。最初の作品集『好古家の怪談集』(一九〇四年)ほか、発表された約四〇篇の作品は、イギリス怪奇小説の古典として現在も高く評価されている。日本では、『M・R・ジェイムズ全集 全二巻』紀田順一郎／訳 (創土社 昭和四八年)、『M・R・ジェイムズ怪談全集 全二巻』紀田順一郎／訳 (東京創元社 平成十三年)などの翻訳が出版されている。

畑耕一（はたこういち）明治十九（一八八六）年～昭和三一（一九五七）年
小説家、劇作家、評論家

広島市堀川町（現 中区）出身。東京大学卒業後は東京日日新聞社記者、国民新聞社学芸部長として勤務。この間、大正二年「三田文学」へ発表した「怪談」で文壇へデビューする。大正十三（一九二四）年、松竹キネマに入社後、研究所長、企画部長として映画・演劇製作に携わる。大学でジャーナリズムや映画研究の講座を担当、また、歌謡曲を作詞するなど多方面で活躍した。代表的な著作に『笑ひきれぬ話』、『怪異草紙』（ともに大正十四年刊）、随筆『ラクダのコブ』（大正十五年）、『広島大本営』（昭和十八年）などがある。昭和十九年より安佐郡可部町（現安佐北区）に疎開、戦後は「中国文化」「ぎんのすず」などに作品を書くなど、広島の文芸復興に尽力した。

web広島文学資料室「畑耕一」

(<http://www.library.city.hiroshima.jp/hatakoichi/>)



【写真】 畑耕一と幽霊画のコレクション

凡例

本文表記については、できるだけ原文の趣を尊重することを原則とし、次の方針を定めました。

- 1 漢字は新字体を用い、旧字俗字等は改める。
- 2 旧仮名づかいは現代仮名づかに改める。
- 3 明白な誤記・脱字・冗字等は改める。
- 4 作者自身が付した、送り仮名や振り仮名の表記が通常と違っていても、意味の取り違え等の不都合の生じないものは、そのまま残す。

ご利用にあたって

本書に掲載した作品には、現在の人権尊重の観点から照らしてみると不適切な表現が含まれていますが、作品執筆当時の時代背景やその資料性を鑑みて、原文のまま収録することとしました。この意図をご理解の上、ご利用ください。